

博士号とりませんか？

北九州市立大学／SWEST実行委員

山崎 進

概要

- 社会人の方、学生の方で、博士号取得を少しでも考えている方に聞いてほしい分科会です。
- 第一部では、博士号を取る目的について、テーブルごとの話し合いも交えて、お話しします。
- 第二部では、その名も「博士号のとり方(第7版)」という書籍を簡単にご紹介します。
- 第三部では、博士号取得の体験談を2つお話しします。
 - 働きながら時間を見つけて最小の労力で博士号を取得した事例
 - ライフワークとして取り組んだ事例
- 第四部では、Q&Aをできればと思っております。

博士号を取る目的

博士号を取る目的

- 目的を考えてみましょう
 - 博士号を取りたいと思っている人は、どうして取りたいのか
 - 博士号に興味がある人は、自分が博士号を取るとしたら、どんな目的が考えられるのか
 - 冷やかして来た人は、世の博士後期課程の学生(社会人を含む)が何の目的で取るのか想像して
 - 博士後期課程の人は、自分がなぜ博士号を取ろうと思ったのかについて、他の人に共有できるように
 - 博士号をすでに持っている人は、自分が博士号をとったことの意義について、他の人に共有できるように
- 各テーブルで話し合って、互いの目的を共有してください

各テーブルで話し合った
ことを共有しましょう

博士号を取得する利点

- もし、ある技術についての専門家でありたいと願う
- すなわち、その技術についての最新知識を有していて、かつ、その技術をさらに発展させるような知見を得たいと願うのであれば、
- その技術領域を修める指導教員のもとで博士後期課程に入学し、その技術領域に属する新規性ある研究テーマに取り組み、そのテーマで博士号を取得することが、有力な選択肢となります。
- 海外で働きたいと思う場合にも、博士号は有力です。
 - 多くの先進国で、博士号を取得していることで就労ビザの取得に有利に働きます。
- もし博士号取得に興味を持ったら、ぜひ、その名も「博士号のとり方(E.M.フィリップス／D.S.ピュー著: 原著 “How to Get a PhD”)」という書籍を手にとって、熟読されることを強くお勧めします。

博士後期課程に進学する際に求められるジレンマとその解消について

本記事では、博士後期課程に進学する利点と、進学する場合に問題となるジレンマについて紹介し、このジレンマを解消するサービスの提供について、告知します。

博士号を取得する利点

もし、ある技術についての専門家でありたい、すなわち、その技術についての最新知識を有していて、かつ、その技術をさらに発展させるような知見を得たいと願うのであれば、その技術領域を修める指導教員のもとで博士後期課程に入学し、その技術領域に属する新規性ある研究テーマに取り組み、そのテーマで博士号を取得することが、有力な選択肢となります。

海外で働きたいと思う場合にも、博士号は有力です。多くの先進国で、博士号を取得していることで就労ビザの取得に有利に働きます。

もし博士号取得に興味を持ったら、ぜひ、その名も「博士号のとり方(E.M.フィリップス／D.S.ピュー著: 原著 “How to Get a PhD”)」という書籍を手にとって、熟読されることを強くお勧めします。

学び直し(学ぶこと)と大学院(研究)の共通点と相違点

今、学び直し(リカレント教育)が大いに奨励されています。学び直しと大学院には、共通する部分も多くありますが、大きく異なる点もあります。

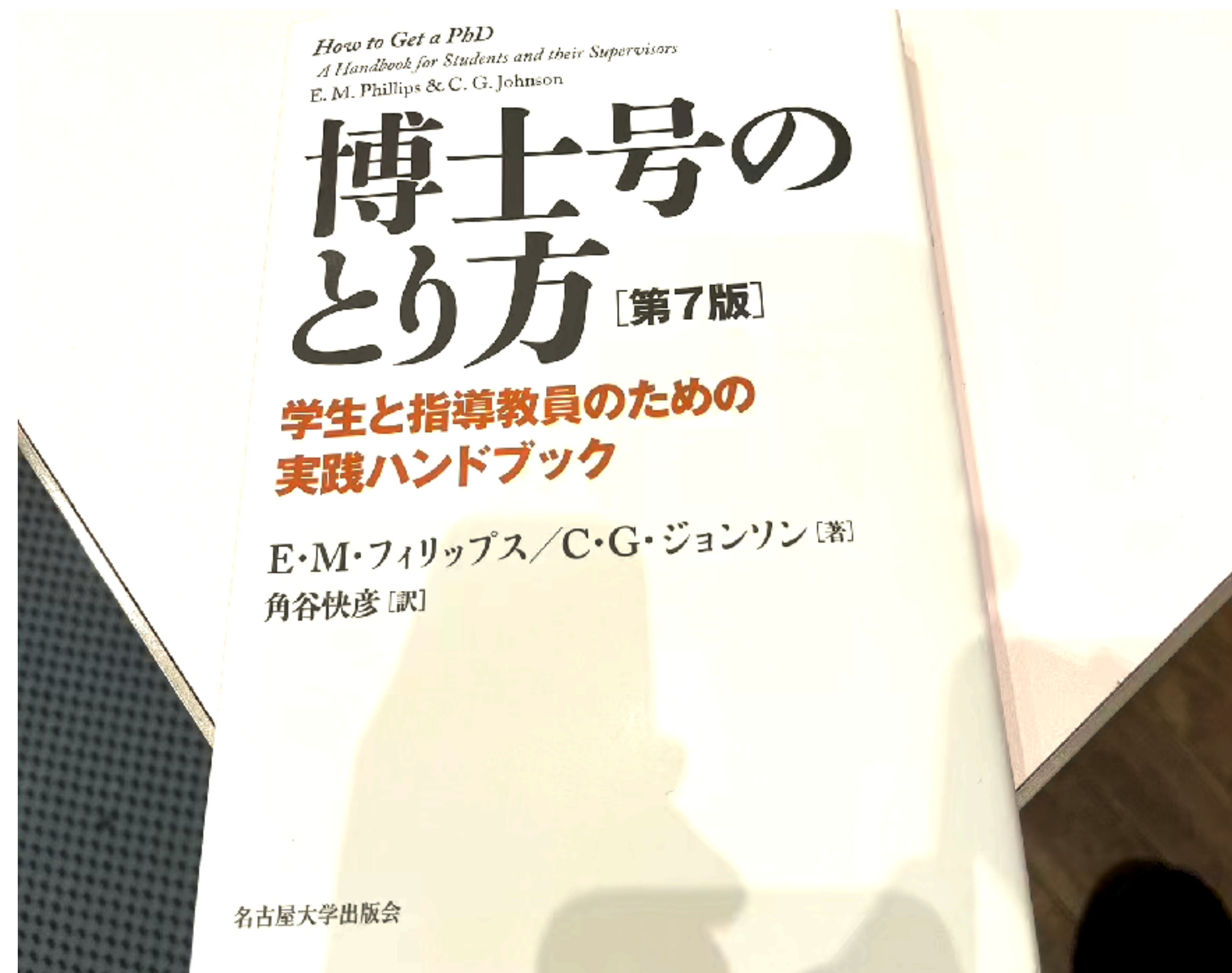
学び直しも大学院でも、自分にとって新しい知見を学ぶことができるという点は共通しています。そのため、この両者は、似たようなことのように思うかもしれません。

「博士号のとり方」

博士号のとり方第7版

- 目次

1. 博士課程の学生になるということ
2. 博士課程に入る
3. 博士学位の本質
4. 博士号を取得しない方法
5. 博士課程の学習方法
6. 指導教員との付き合い方
7. 博士論文を書く
8. 博士課程のプロセス
9. アカデミックな環境で研究する
10. 審査制度
11. 指導と審査の仕方
12. 研究機関の責務



博士号のとり方第7版

- 目次

1. 博士課程の学生になるということ

2. 博士課程に入る

3. 博士学位の本質

4. 博士号を取得しない方法

5. 博士課程の学習方法

6. 指導教員との付き合い方

7. 博士論文を書く

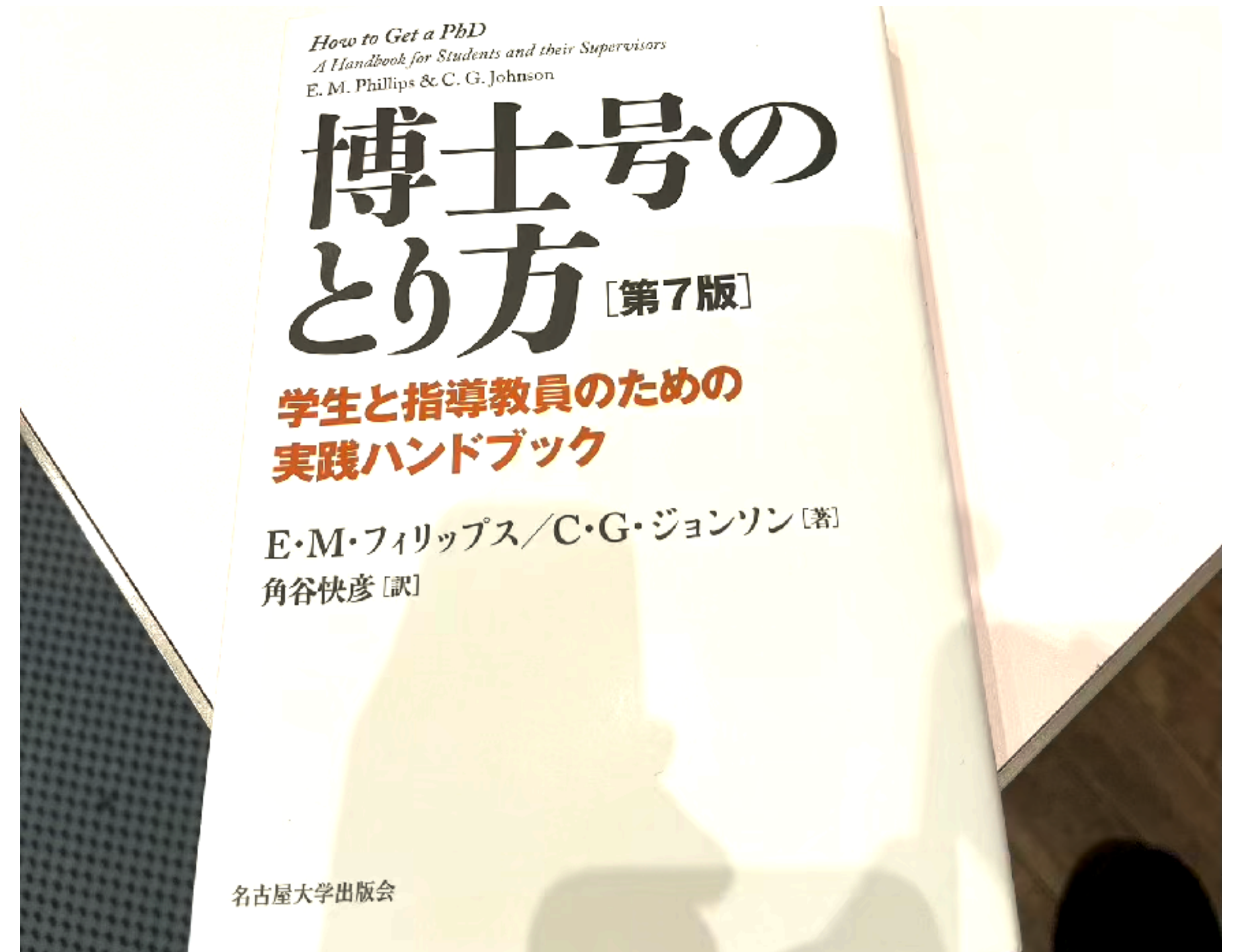
8. 博士課程のプロセス

9. アカデミックな環境で研究する

10. 審査制度

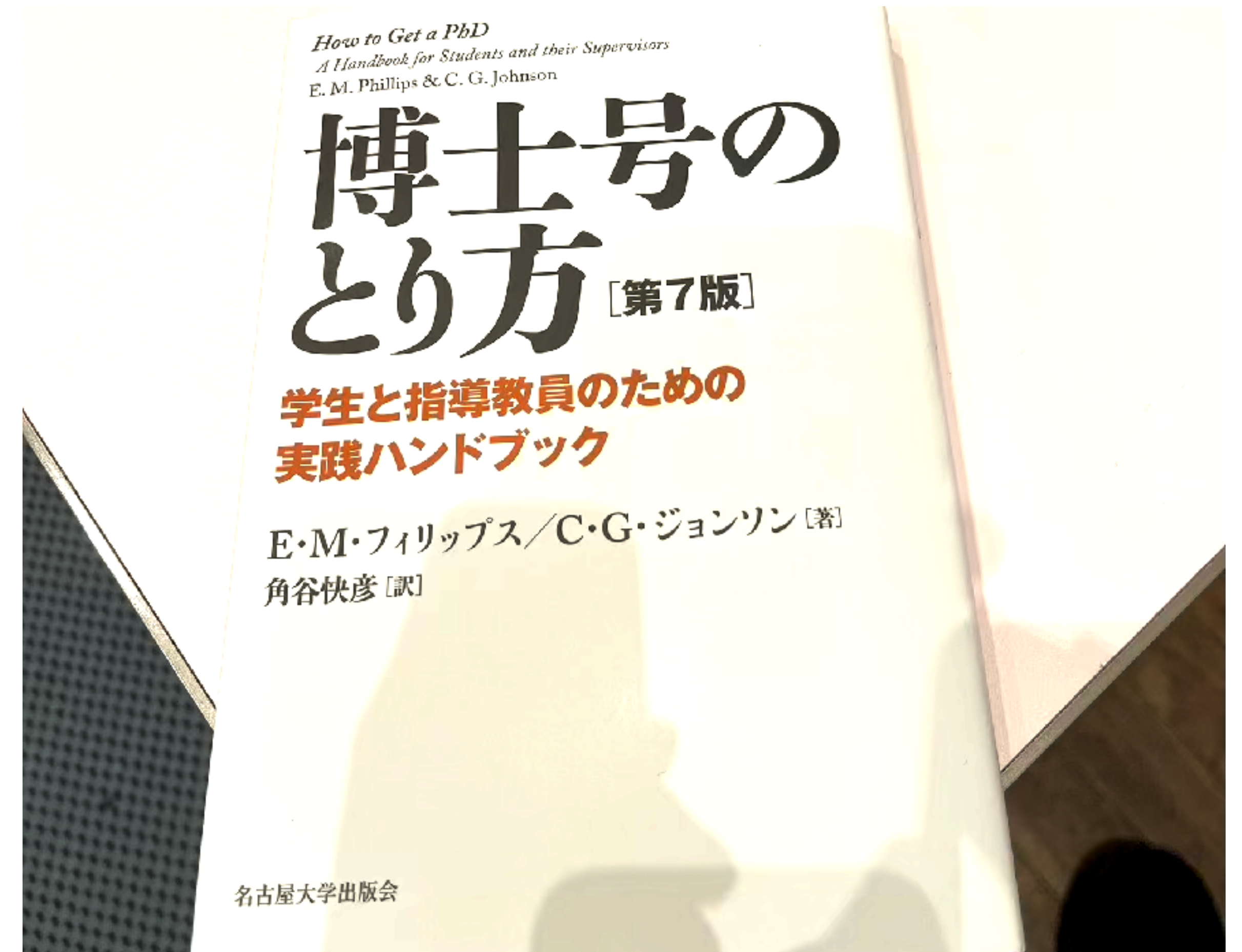
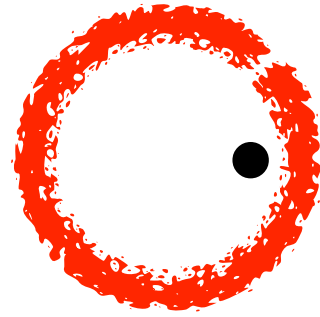
11. 指導と審査の仕方

12. 研究機関の責務



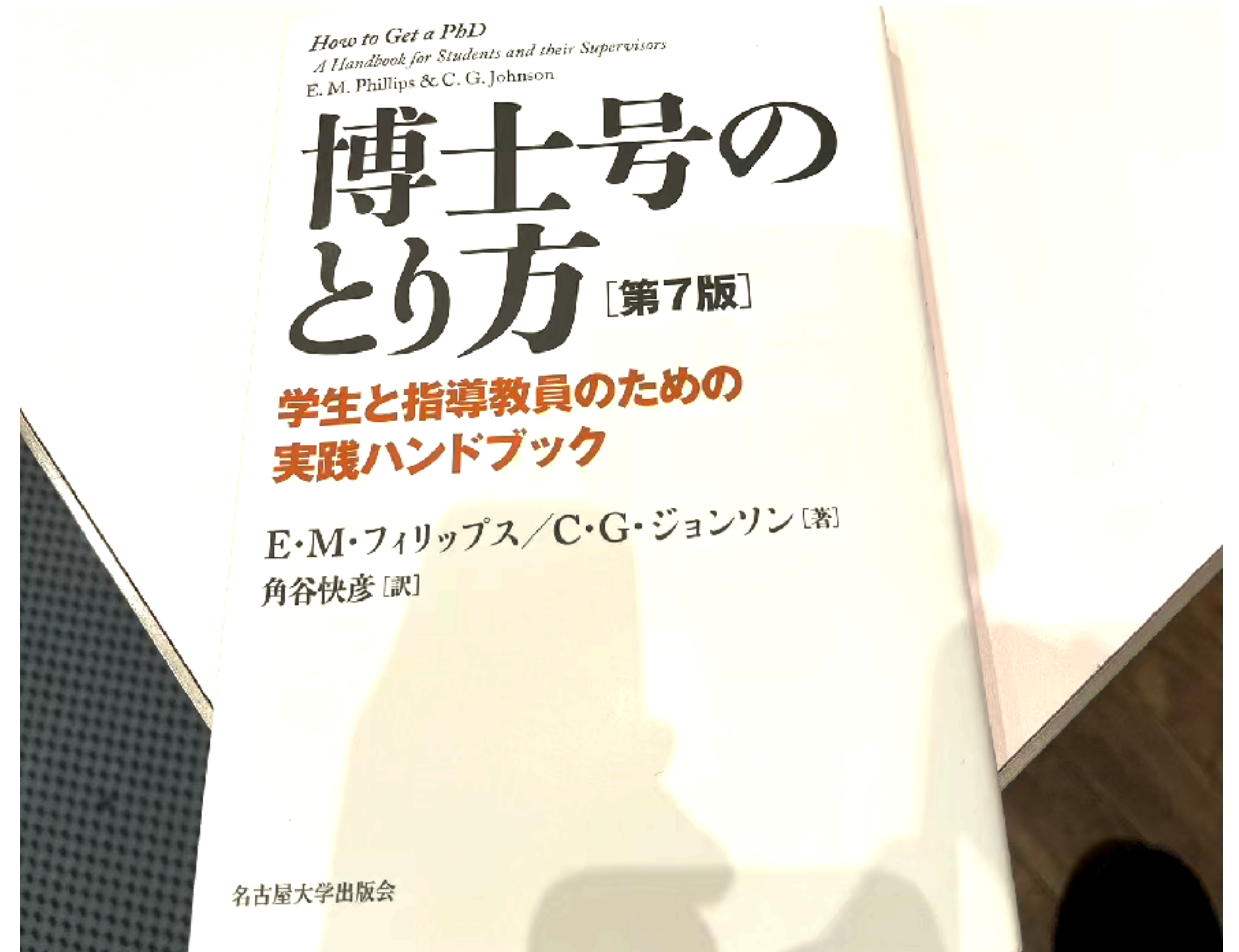
博士課程に入る

- 研究機関と研究分野の選択
- 初めての連絡
- 資格
- 研究費と研究サポート
- 博士課程教育センター
- 通信教育は可能か
- 指導教員を選ぶ
- 研究学生としての始動
- 博士課程の俗説と真実
- チームワーク



博士号を取得しない方法

- 博士号を欲しがらない
- 求められる要件を過大評価することによる博士号への誤解
- 求められる要件を過小評価することによる博士号への誤解
- 博士号の要件を理解する指導教員をもたない
- 指導教員との連絡をとらない
- 研究環境にいない
- 持論をもたない
- 他人の業績の盗用・剽窃、または結果の捏造
- 論文提出前にまったく違う職に就く



博士号取得の体験談その1

働きながら時間を見つけて最小の労力で 博士号を取得した事例

博士号取得の体験談その2

ライフワークとして取り組んだ事例

Q&A

最後に

博士後期課程進学の相談に乗ります

- 特に社会人の場合には、相談できる窓口も少ないと考えられます。
- 組込みソフトウェアやソフトウェア工学など、より広い領域についても、相談を受け付けますので、気軽に相談ください。
- zacky@kitakyu-u.ac.jp

博士後期課程に進学する際に求められるジレンマとその解消について

本記事では、博士後期課程に進学する利点と、進学する場合に問題となるジレンマについて紹介し、このジレンマを解消するサービスの提供について、告知します。

博士号を取得する利点

もし、ある技術についての専門家でありたい、すなわち、その技術についての最新知識を有していて、かつ、その技術をさらに発展させるような知見を得たいと願うのであれば、その技術領域を修める指導教員のもとで博士後期課程に入学し、その技術領域に属する新規性ある研究テーマに取り組み、そのテーマで博士号を取得することが、有力な選択肢となります。

海外で働きたいと思う場合にも、博士号は有力です。多くの先進国で、博士号を取得していることで就労ビザの取得に有利に働きます。

もし博士号取得に興味を持ったら、ぜひ、その名も「博士号のとり方(E.M.フィリップス/D.S.ピュー著: 原著 “How to Get a PhD”)」という書籍を手にとって、熟読されることを強くお勧めします。

学び直し(学ぶこと)と大学院(研究)の共通点と相違点

今、学び直し(リカレント教育)が大いに奨励されています。学び直しと大学院には、共通する部分も多くありますが、大きく異なる点もあります。

学び直しも大学院でも、自分にとって新しい知見を学ぶことができるという点は共通しています。そのため、この両者は、似たようなことのように思うかもしれません。